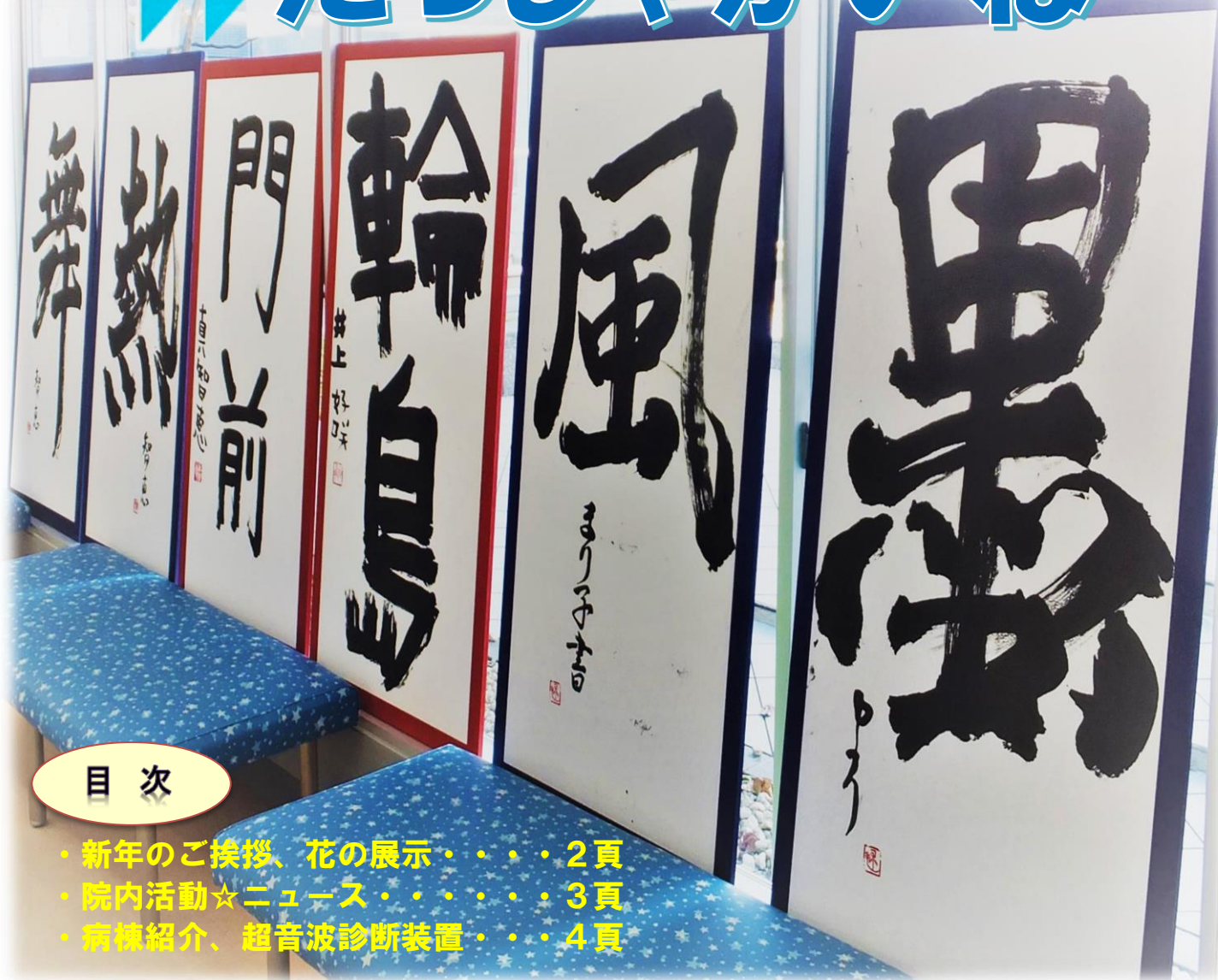


# たっしゅかいいね



## 目次

- ・ 新年のご挨拶、花の展示・・・2頁
- ・ 院内活動☆ニュース・・・3頁
- ・ 病棟紹介、超音波診断装置・・・4頁

病院ふれあいフェア(11月18日) 書道作品展示コーナー

## 基本理念

「心の通う医療サービスの提供」

地域の中核病院として、行政機関、医療機関、介護施設と連携し、地域に必要な医療を公平・公正に提供し、住民の生命と健康を守るため、多様化する医療需要に対応できる医療環境の整備を図り、医療を受ける人の立場での診療や看護につとめることを基本とする。

## 基本方針

1. 救急や災害医療等、地域に必要なとされる医療を提供し、住民の健康の維持・増進に努めます。
2. 医療従事者の教育・研修等、職員の不断の研鑽により、質の高い医療の提供と地域の医療水準の向上に努めます。
3. 患者の権利と尊厳を尊重し、思いやりの心で気持ちのよい接遇に努め患者中心の医療を推進します。
4. 安心して医療を受けられる環境を整備すると共に、職員の教育を徹底し、より安全な医療の提供に努めます。
5. 公共性を確保し、合理的かつ効率的な病院経営に努め、健全で自立した経営基盤を確保します。



# 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。



日頃から、市立輪島病院の運営に対しご支援ご協力をいただき心よりお礼を申し上げます。

さて、去年は、大きな事業として電子カルテの更新をいたしました。平成24年1月に電子カルテを導入して以降7年の間に、IT業界は、SNSサービスが普及するなど劇的に変化しております。医療分野においても、ITの進化は目覚ましく、この間、当院では、診療情報共有システム

(ID-Link) やテレビ会議システムを導入するなど、医療機関相互の連携システムが構築されました。このようにITが進化するにつれて、医療現場では、求められる情報の質が高度化するとともに、情報量が増大し続けております。今回の電子カルテの更新は、増大する情報に対応すべく処理能力・機能を増強し、業務負担の軽減と同時に、強化された機能を十分に活用することにより、チーム医療のさらなる推進や、在宅医療との連携等、医療サービスを最適かつ切れ目なく提供することが可能になると考えております。

地域の中核病院としてよりよい医療を提供し、皆さまから信頼される病院となるよう、また、皆さまが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、職員一丸となって更なる努力をしまいる所存です。

本年も何卒ご支援とご助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

院長 品川 誠



正面ロビーにお花を飾っています。



内科の尾山医師が心を込めて毎日お手入れしています。

季節に合わせて、お花を入れ替えていますので、ご来院の際にはぜひご覧ください。







## 職場体験

### わく・ワーク職場体験



輪島市立東陽中学校1名、輪島市立輪島中学校12名の生徒が職場体験学習にやってきました。「病院の仕事」を体験し、「患者さんから『ありがとう』って言われてうれしかった。」「将来、医療関係の仕事をしてみたい。」などの感想が聞かれました。

今回の体験を通して、さらに医療に興味を持ち、将来の職業選択に役立てていただければと思います。



### 新!おしごとたいけん”病院で働こう”



児童センターの事業の一環として児童10名が白衣を着用して、実際に聴診器で自分や友達の心臓の音を聴くなどの体験をしました。「心臓が動いているのが分かった。」などと驚いた様子でした。また、体験終了後には「いろんな仕事の人がいて協力していることがわかった。」「楽しかった。」といった言葉が聞かれ、充実した時間を過ごせたことが伺えました。

## 接 遇 研 修 会



病院内の全職種が参加し、接遇のスキルを学びました。研修では、何気ない日常の挨拶やコミュニケーションが持つ沢山の意味を改めて考えさせられ、接遇の重要性をかみしめることのできる良い機会となりました。

全職員が患者様一人一人に思いやりを持って接することが病院全体の接遇の向上につながると思います。

## 災害時対応訓練



震度7の地震発生により、家屋の倒壊、火災、交通事故等で多数の負傷者が当院に搬送されるという想定のもと、主にトリアージ（緊急・重症度選別）の訓練をおこないました。

各人の役割を認識して、具体的にどのように行動すればよいかを考えることとそれぞれの担当の速やかな対応を知っていることが大切だと感じました。実際に災害が起こった時に迅速に動けるように今後も訓練を重ねていきます。

## 病院ふれあいフェア

### 児童館剣玉ダンス



### 救急救命体験



### キッズコーナー



### 消防車展示

当院において11月18日(日)「病院ふれあいフェア」を開催し、当日は200名近くの方が参加されました。日頃からおつきあいさせていただいている施設の方々、地域の皆様のご協力のもと、書の展示やさまざまなコーナー、プログラムを実施することができました。

体験コーナーでは、肺・血管年齢、女性に人気の肌年齢測定、ヘッドマッサージ体験に多くの方が参加いただきました。また、プチナース体験では、子どもたちが白衣に着替え写真撮影をおこない、「将来は看護師さんになりたい」という嬉しい声も聞かれました。



## 病棟紹介 ～ 3階西病棟 ～



当院の3階西病棟は、46床の混合病棟で、整形外科、内科をはじめ、産婦人科、小児科の患者さんもいらっしゃいます。

新生児から100歳以上の方が入院されており、年齢層が幅広いということが特徴です。

特に、妊産婦さんには、平成20年に赤ちゃんにやさしい病院（BFH）の認定を受けてから10年が経過し、母乳育児がとても定着してきていると感じます。

初めてのお産で不安な妊産婦さんに寄り添い、安心してあたたかい雰囲気の中で出産していただくよう努めており、退院時のアンケートでも「出産後は、昼夜問わず、助産師、看護師さんがいてくれて授乳を手伝ってくれたことが、本当に心強く安心できました。」というお声を多くいただいております。



今後も、高齢者や一般の患者さんをはじめ、妊産婦さんやお子さんなどみなさまに満足していただけるようスタッフ一同、患者さんやご家族一人ひとりの思いに寄り添いながらケアに努めてまいります。

3階西病棟師長 奥野 和美



## 放射線部 ～ 超音波診断装置の更新 ～



従来の装置に比べ小型化・計量化になり操作性が向上しています。また、大型モニターになり視認性もよくなっています。

先端技術でのノイズの低減により、分解能と感度が向上し病変の抽出がしやすく、高精細ズームや高精細カラー表示も可能です。組織のひずみをリアルタイムに算出することで堅さの違いを色付けするエラストグラフィも搭載されており、以下2種類のエラストグラフィが可能です。

①歪みの大きさをみる「ストレインエラストグラフィ」は、乳腺領域に特に有効で甲状腺や表在・肝臓でも使用可能です。また、②組織の中を剪断波が伝搬する速度をみる「シアウェーブエラストグラフィ」は肝の繊維化診断に有効です。

上記2種類の組み合わせでより正確な慢性肝疾患などの繊維化診断が期待されます。新しい超音波装置の導入によって、より診断価値のある画像を提供していきたいと思っています。

放射線科 スタッフ一同



平成30年6月  
超音波診断装置更新

### 編集後記

明けましておめでとうございます。年末は年賀状書き、大掃除、おせちの準備・・・などあわただしく過ごされた方もようやくホッと一息といったところでしょうか。さて、今年はどんな年になるのでしょうか。皆さんにとってよい年になりますように。

編集:市立輪島病院 広報厚生委員会 広報誌担当

